

## ポイント② 容態に応じて適切な保健・医療・福祉・介護サービスを切れ目なく提供するネットワークの構築

### 【課題】

- 1 地域ネットワークの構築
- 2 地域での生活を支える適切な医療・介護サービスの整備
- 3 身体合併症悪化時のサポート強化
- 4 BPSD悪化時のサポート強化
- 5 住み慣れた地域や場所で、認知症の人の意思が尊重されながら、最期を迎えることができる医療と介護体制の構築

### 【課題解決の方向性】

認知症に関係する様々な機関が連携することで、認知症の人の症状が悪化しても、容態に応じて適切なサービスを提供するための体制を構築していきます。また、本人とその家族が、今後送りたい生活をイメージして、関係機関とともに、切れ目のないケアプランを考えていくために認知症ケアパスを広く普及啓発していきます。認知症ケアパスを共有することで、本人の意思を尊重したサービスの提供を図ります。

#### 1 地域ネットワークの構築

- (1) 日ごろから地域でのコミュニケーションを確立し、見守る力を育む。
- (2) 認知症の初期段階から、関係機関とつながり、情報を共有しながら見守っていく体制を作る。
  - ①医療関係機関との連携
  - ②介護関係機関との連携
- (3) 認知症の人や家族が直面していく問題をできるだけ多くの人理解し、地域での温かい、緩やかな見守り体制を作る。
- (4) 認知症ケアパスの普及
  - \* 認知症ケアパス・・・発症予防から人生の最終段階まで、生活機能障害の進行状況に合わせ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいのか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したもの。

#### 〈具体策〉

- 1) 認知症ケアパス(別冊)「認知症安心ガイドブック」の普及啓発
- 2) 認知症初期集中支援チームの機能強化(再掲)
- 3) 認知症地域支援推進員<sup>※7</sup>を各地域包括支援センターに配置  
地域の認知症の相談窓口になるとともに、認知症の啓発・早期発見とその後の支援、各福祉区の医療と介護の連携強化に努める。
- 4) 認知症地域支援推進員を地域ケア総合推進センターに配置  
岡山市全体の医療と介護の情報収集や連携強化に努め、認知症ケアパスの普及啓発等、認知症の人やその家族を支援する事業を推進する。
- 5) 地域ケア会議の開催と活用  
予防プランの検討や、地域資源の共有・発掘、多職種連携の推進  
(個別プラン検討会<sup>※8</sup>、地域ケア連携会議<sup>※9</sup>、地域ケア推進会議<sup>※10</sup>、小地域ケア会議<sup>※11</sup>)

- 6) 地域ネットワークアクションプラン策定会議<sup>※12</sup>の開催と福社区単位での地域課題抽出、解決に向けた検討
- 7) 顔の見えるネットワーク構築会議(多職種連携)<sup>※13</sup>の開催と連携しやすい関係の強化
- 8) 市民と専門職による在宅医療・介護の意見交換会<sup>※14</sup>の開催と在宅での地域支援ネットワークの構築